タイ人はラフカディオ・ハーンの「日本人の微笑」をどう解釈するか。

OPOTHISITTHIPORN TIPPAYARAT¹ 米谷淳² 林萍萍¹

(神戸大学大学院国際文化学研究科 神戸大学大学教育推進機構)

Key words: comparison between Japanese and Thai, “Japanese Smile”, reading comprehension

目 的

“Japanese Smile” (Hearn, 1895) の発表以降、日本人が人前で「西洋人の謎」である微笑みをよくすることが世界的によく知られるようになった。タイ国は Land of Smile と呼ばれるように、タイ人の微笑みも世界中に知られている (例えば、松下, 1995)。日本人とタイ人は、ハーンの『日本人の微笑』に描かれた微笑みをどのように解釈するだろうか。これを検討する手始めに、日タイの大学生に文章を読ませ、読み取り方を調べてみたので、ここに報告する。

方 法

回答者 日本人大学生 38 名 (男性 21 名, 女性 13 名, 不明 3 名, 平均年齢 19.5 歳・SD 1.28)。タイ人大学生 65 名 (男性 16 名, 女性 49 名, 平均年齢 20.8 歳・SD 0.58)。

手続き 『日本人の微笑』(小泉, 1975) において微笑みが描写されている以下の 3 場面を読ませ、「微笑みについてどう理解するか」、「日常生活の中で同じような体験をしたことがあるか」質問した。タイ人には、研究者が訳したタイ語の質問紙を使用した。教室で授業中に学生に質問紙を配布し、回答してもらい回収した。調査は匿名で実施した。

場面 1 イギリス人紳士が日本人を責めたところ、日本人が微笑みを浮かべた。(p247-248)

場面 2 家政婦が、夫の骨が入った壺を雇い主の婦人に見せながら笑っていた。(p249-250)

場面 3 雇い主が元侍の雇われ人を殴ったが、元侍はずっと微笑んでいた。(p250-252)

分析方法 KJ 法を用いて回答をグループ化した。タイ人の回答は、2 人のタイ人、日本人の回答は、1 人の日本人と日本語ができる 1 人のタイ人評定者が話し合いながらグループ化した。その後、タイ人と日本人の回答を意味的に分析し、類似な内容を同じグループにした。

結 果

場面 1 において、タイ人大学生の述べ回答 74units の内、謝罪 (35units, 53.8%) が最も多く、次に、容認 (11units, 16.9%)、軽蔑 (7units, 10.8%)、場をやり過ごす (5units, 7.69%)、感情抑制 (4units, 6.15%) の順であった。一方、日本人大学生の述べ回答 38units の内、場をやり過ごす (12units, 31.6%) が最も多く、次に、理解不能 (6units, 15.8%)、謝罪 (5units, 13.2%)、軽蔑 (5units, 13.2%)、自己アピール (5units, 13.2%) の順であった。 χ^2 検定の結果、謝罪、容認は、タイ人が日本人より回答率が有意に高く ($p < .05$)、理解不能、場をやり過ごす、自己アピールは、日本人がタイ人より回答率が有意に高い ($p < .05$) ことが確かめられた。

図 1 場面 1 の回答率の比較

場面 2 において、タイ人大学生の述べ回答 75units の内、悲しみの隠ぺい (28units, 43.1%) が最も多く、次に、喜び (15units, 23.1%)、現状理解 (8units, 12.3%)、上司に対するマナー (6units, 9.23%)、自分への励まし (6units, 9.23%) の順であった。一方、日本人大学生の述べ回答 39units の内、悲しみの隠ぺい (13units, 34.2%) が最も多く、次に、喜び (10units, 26.3%)、上司に対するマナー (6units, 15.8%)、理解不能 (5units, 13.2%) の順であった。 χ^2 検定の結果、現状理解は、タイ人が日本人より回答率が有意に高い ($p < .05$) ことが確かめられた。

場面 3 において、タイ人大学生の述べ回答 65units の内、余裕 (12units, 18.5%) と大人としての自己アピール (12units, 18.5%) が最も多く、次に、軽蔑 (8units, 12.3%)、怒りの抑制 (7units, 10.8%)、劣っていることを認める (7units, 10.8%) の順であった。一方、日本人大学生の述べ回答 39units の内、余裕 (14units, 36.8%) が最も多く、次に、場をやり過ごす (9units, 23.7%)、怒りの抑制 (5units, 13.2%) の順であった。 χ^2 検定の結果、大人としての自己アピールは、タイ人が日本人より回答率が有意に高く ($p < .05$)、余裕、場をやり過ごすは、日本人がタイ人より回答率が有意に高い ($p < .05$) ことが確かめられた。

図 2 場面 3 の回答率の比較

考 察

場面 1 の微笑みは、タイ人には謝罪と解釈される傾向がある一方、日本人には場をやり過ごすための対処と解釈される傾向がある。場面 2 の微笑みは、タイ人にも日本人にも、悲しみの隠ぺいと解釈される傾向があるが、その傾向は、タイ人が日本人より強い。場面 3 の微笑みは、タイ人にも日本人にも、余裕と解釈される傾向があるが、タイ人には、大人としての自己アピールとも解釈される傾向があるのに対し、日本人には場をやり過ごすための対処としても解釈される傾向がある。

引用文献

- Hearn, L. (1895). *Glimpses of Unfamiliar Japan*. Houghton, Mifflin.
小泉八雲 (1975). 日本人の微笑 小泉八雲著 上田和夫訳 小泉八雲集 新潮社, 245-273.
松下 正弘(編) (1995). タイ文化ハンドブック—道標微笑の国へ— 勁草書房, 3-5.

(Tippayarat POTHISITTHIPORN, Kiyoshi MAIYA, Ping Ping LIN)